

第3学年＊組 国語科学習指導案

指導者 教諭 吉原 美咲
R 7 研修センター長期研修

1 単元名 登場人物の気持ちや性格について考えたことを、つたえ合おう（「モチモチの木」）

2 単元の目標

- （１）様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕（１）オ
- （２）登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）エ
- （３）言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

登場人物の気持ちの変化を具体的に想像し、お気に入りの場面とともにリーフレットで紹介し合う。
（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（２）イ）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。〔（１）オ〕	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔Ｃ（１）エ〕	① 粘り強く登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて読み、学習課題に沿って伝え合おうとしている。

5 単元について

（１）教材観

児童はこれまで「まいごのかぎ」や「ちいちゃんのかげおくり」等の学習において、登場人物の気持ちを捉えたり、場面同士を比べて読んだりする学習を重ねてきた。

本教材は、臆病な男の子「豆太」がたった一人の家族であるじさまを助けたいという思いから、勇気を振り絞って夜中に医者を呼びに行くという物語である。五つの場面それぞれの会話文や行動、情景などに豆太の気持ちの変化がわかりやすく描かれている。また、擬人法やオノマトペなど表現も工夫されており、豆太の気持ちをより具体的に想像する手掛かりとなる。したがって、本単元の重点である〔思考力、表現力、判断力等〕Ｃ（１）エの「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」の実現に適した教材であると考えられる。

（２）児童観

一学期に学習した文学的な文章「まいごのかぎ」の単元末テスト（令和7年＊月＊日実施、第＊学年＊組＊人）では、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する力を問う問題の正答は＊人であった。誤答＊人のうち、叙述に基づいて登場人物の気持ちを想像できない児童が＊人、登場人物の会話を気持ちの変化に結び付けられない児童が＊人、無答が＊人であった。誤答の傾向を分析すると、行動と気持ちを表す語句の意味や性質、気持ちに関わる情景の比喩的な表現やオノマトペ等への理解が不十分であるために、物語の解釈につながらないことがわかった。以

上のことから、本学級の児童は様子や行動、気持ちを表す語句の意味や性質等に着目することや、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することに課題があると判明した。そのため、児童が言葉に立ち止まるための手立てや、言葉による見方・考え方を働かせて叙述を吟味しながら結び付けて読むための手立てが必要であると考えた。

(2) 指導観

本単元では、お気に入りの場面とともに登場人物をリーフレットで紹介するという言語活動を位置付け、言葉による見方・考え方を働かせて、叙述を吟味し結び付けながら読む学習活動を展開する。まず、言葉の意味や性質等に着目することができるよう、デジタルホワイトボードでことばコレクションを作成し、語彙を広げていく。次に、言葉の意味を問い直し、会話文や行動、情景などから気持ちを想像して読むことができるよう、読みの視点ガイド（a. 会話文、b. 行動、c. 情景）を基に言葉を吟味しながら登場人物の気持ちや性格を本文シート上に整理する。さらに、複数の叙述を基に、物語全体に描かれた気持ちや性格を場面の移り変わりと結び付けて読むことができるよう、物語全体から見いだした気持ちの変化や性格を人物カードや人物分析シートへ整理していく。これらの学習活動では、常にことばコレクションを活用しながら、語彙を広げる活動と、言葉を吟味する活動、物語全体から気持ちの変化や性格を見いだす活動とを往還させていく。斎藤隆介の作品には児童が共感しやすく、且つ魅力的に感じる主人公が多数存在する。生き生きと描かれる主人公の姿は、児童の心を揺さぶり、物語を楽しむ味わいながら読むための原動力になると考えた。よって今回は斎藤隆介作品の並行読書を実施し、同様の学習活動を繰り返すことで、培った力をより確かなものにしていく。以上のような学習活動を行えば、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する力を育成することができるのではないかと考える。

6 単元の指導計画（11 時間扱い）

○は指導に生かす評価場面 ◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容	知	思	態	評価規準・留意点
一	1	課題 「モチモチの木」をどのように読んでいけばよいだろうか。 - 単元の見通しをもつ。 - 教師の範読を聞く。 - 初発の感想と疑問を書く。感想はワークシートへ、疑問は付箋紙へ記入する。 まとめ 「モチモチの木」を言葉と登場人物の気持ちの変化や性格、情景に注目して読んでいけばよい。			○	- 事前に並行読書作品の読み聞かせを行い、深く読みたい1冊を選んでもおく。 「学びの地図」で単元計画を示し、見通しがもてるようにする。 「誰が、どんな出来事を通して、どう変わったか」を考えながら範読を聞くようポイントを伝える。 思①：登場人物の気持ちに着目して感想を書いているかを見取り、つまずきが見られた児童には挿絵を参考にしながら考えてみるよう助言する。 【ワークシート】 - 今後、並行読書作品も併せて学習し、登場人物について詳しく読むためのコツを学ぶことを伝え、学習意欲を高められるようにする。

二	2	課題 物語を具体的に想像するために、大切なことは何だろう。 - 教科書教材及び並行読書作品の中の意味の分からない言葉を確認し、共有する。 - 本文中の言葉の意味や使い方を国語辞典で確認して、ことばコレクションを作成する。 - 単元で取り扱う言葉を、1人1ページ担当する。 - 出来上がったページを友達と交流し、言葉の意味や使い方、性質について伝え合う。 まとめ 物語を具体的に想像するには、言葉の意味や使い方を知ることが大切。	○	- 単元で身に付けたい力を学びの地図で確認する。 - 分からない言葉を取り上げ、ことばコレクションを作成する意義を感じられるようにする。 - デジタルホワイトボードを活用し、調べたことをクラス全体で共有できるようにする。 - 言葉の性質の欄に丸をつけ、意味や使い方だけでなく性質も意識できるようにする。 知①：様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているかを見取り、つまずきが見られた児童には、辞書引きの手引きを提示し、スムーズに辞書から必要な情報を探せるようにする。 【ことばコレクション】 - 分からない言葉が出てきた際にはことばコレクションに追加できることを伝える。
	3	課題 「モチモチの木」はどのような物語なのだろうか。 - 物語の大まかな流れをつかむ。 - 登場人物を確認するとともに、豆太の境遇や状況など、設定を確認し情報カードに書き込む。 「語り手」という学習に用いる言葉の意味をおさえる。 まとめ 「モチモチの木」は、おくびょうな豆太がじさまの病気をきっかけに勇気を出す物語。		- 児童から出た疑問を分類したものを提示し、物語を深く読むことで疑問を解決していくという見通しをもてるようにする。 - 情報カードに年齢・家族構成・場所等をまとめることで、今後読み進めていく中でも常に意識できるようにする。 ○ 態①：登場人物の性格を場面の移り変わりと結び付けて読むために、境遇や状況を把握しているかを見取り、つまずきが見られた児童には、場面を示すことで探しやすくする。 【情報カード】
	4	課題 どのような言葉や文に注目すれば、登場人物の気持ちを見付けることができるのだろうか。 読みの視点ガイドで着目するポイントを確認し、本文シートの一～三場面の叙述に線を引く。		- 本文シートに整理することで、物語の全体像をつかめるようにする。 - 読みの視点ガイドや人物カードを本文シートに貼っておくことで、いつでも確認できるようにする。 - 会話文は黒、行動は赤、情景は青で線を引き、視覚的に区別しやすくする。
	5	線を引いた部分を、小グループで交流する。	○	思①：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について叙述を見付

		・叙述を結び付けて分かる豆太の姿を短文で表し、人物カードへ記入する。 まとめ 会話文や行動、情景に係る言葉や文に注目すれば、登場人物の気持ちを見付けることができる。			けているかを見取り、つまり きが見られた児童には、具体 例の書いてあるお助けカード で支援する。 【本文シート・人物カード】
	6	課題 豆太の気持ちの変化や性格を具体的に想像するにはどうすればよいだろうか。 ・第四場面で、走り出した豆太の気持ちが分かる叙述に線を引く。 ・注目した言葉と、そこから想像したことに分けてワークシートへ記述し、考えを交流する。 ・叙述を結び付けて分かる豆太の姿を、短文で表し、豆太カードへ記入して本文シートに貼る。			・ことばコレクションをともに作り追加することで、辞書的意味だけでは理解できない比喩的表現やオノマトペについて吟味できるようにする。 ・注目した言葉とそこから想像することを分けて問うことで、言葉に立ち止まり、具体的な情景や気持ちを想像できるようにする。 ・注目した言葉を友達と比較する時間をとることで、どの叙述同士を結び付けるかによっても物語の捉え方が異なり、多様に想像を広げて読むことができることを実感できるようにする。
	7	・第四場面で、泣きながら走る豆太の気持ちが分かる叙述に線を引く。 ・注目した言葉と、そこから想像したことに分けて記述し、考えを交流する。 ・場面の移り変わりと結び付けて読むことで分かる豆太の気持ちの変化や性格を確認する。 まとめ 言葉に注目して気持ちの分かる会話や行動、情景を見付け、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することが大切。	◎		・場面に出てくるはんでんなどの具体物を用意し、児童がより具体的に想像できるよう工夫する。 思①：豆太の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しようとしている。 【豆太カード・振り返り】 ・物語全体を通して揺れ動く豆太の気持ちの変化を確認し、登場人物の性格は一場面ずつではなく場面の移り変わりと結び付けて初めて分かるということを意識できるようにする。
三	8	課題 お気に入りの場面を見付けるには、どのように読めばよいだろうか。 ・自分が選んだ作品の内容を確認する。 ・登場人物の境遇・状況を確認する。 ・登場人物の気持ちの変化や性格が特に分かる場面について交流し、選べるようにする。			・「モチモチの木」を学習したときと同じように、設定を情報カードにまとめる。 ・ことばコレクションへの追記は、朝の学習の時間も使えることを伝えておく。 ・物語が一番大きく変化する部分はどこかを考えることで山場を捉え、その場面において登場人物の気持ちを丁寧に読み、具体的に想

	まとめ 登場人物の設定を整理して、気持ちや性格を比べながら読むとよい。				像して紹介するという見通しがもてるようにする。
9	課題 並行読書作品の登場人物の気持ちの変化は、どの言葉や文を結び付けて読めばわかるのだろうか。 - 読みの視点ガイドで着目するポイントを確認し、気持ちの変化や性格が分かる叙述を見付け、山場の本文シートへ線を引く。 - 同じ作品を選んだグループの友達同士で、注目した言葉や叙述、表現を比べ、考えを広げる。 - 叙述を結び付けて分かる姿を、人物カードへ記入する。		○	同じ作品の同じ場面を選んだ児童同士で4人グループを作る。着目した言葉とそこから想像したことを伝え合い、考えが広がるようにする。 思①：並行読書に出てくる登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているかを見取り、つまずきが見られた児童には、注目した言葉とそこから想像したことを問うことで気持ちを段階的に考えられるようにする。 【本文シート】	
10	登場人物の設定、お気に入りの場面と人物の紹介、気持ちを想像するときに注目した言葉や文を、人物分析シートへまとめる。 まとめ どんな物語も登場人物の気持ちの変化は、会話文や行動、情景から分かる気持ちを、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像することが大切。		◎	設定や言葉に注目して想像したことが、紹介文の内容に含まれるよう助言する。 思①：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しようとしている。 【人物分析シート・振り返り】 知①：様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしようとしている。 【人物分析シート】	

11 本時	目標：粘り強く読み取った登場人物の気持ちの変化を、学習課題に沿って伝え合おうとしている。 1 学習課題を確認する。 課題 どのような言葉に注目すると、物語を読み味わうことができるのだろうか。 2 リーフレットを交流し、感想を伝え合う。 ・感想は感想カードに記入し交換する。 ① 同じ物語を選んだ人同士で（4分×3） ・友達がどんな言葉に注目して、どんな想像をしたのかを知る。 ② 違う物語を選んだ人同士で（10分） 3 本時のまとめをする。 まとめ 「モチモチの木」と同じように、会話文や行動、情景の言葉に着目すると読み味わうことができる。 4 単元のまとめをする。 単元のまとめ ①登場人物の気持ちは、会話文や行動、情景について書かれているところを見つけて想像する。 ②見付けたところをさらに結び付けて、登場人物の性格も具体的に想像する。 ③想像するには、言葉の意味を知ったり、考えたりすることも必要。 5 単元全体の学習を振り返る。		・登場人物の気持ちの変化を見付けるには、読みの視点ガイドで示したポイントをおさえ、叙述を結び付けて読む必要があることを再確認しておく。 ・リーフレットの交流方法に変化をもたせることで、友達の多様な読み方や感じ方に触れられるようにする。 ・感想はカードに書いて交換することで、互いの手元に友達からのフィードバックが残るようにする。 ・登場人物を分析するヒントにした言葉や文を交流することで、言葉に着目する大切さを感じられるようにする。 ◎ 態①：粘り強く登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて読み、学習課題に沿って伝え合おうとしている。 【観察・感想カード】 ・単元のまとめでは、本単元で学習した内容を整理することで、単元全体の振り返りにつなげていく。また、語彙を豊かにすることで、今後の読書活動につなげていけるようにする。
----------	---	--	--